

# Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度		2023年度	開講キャンパス		開講キャンパス	開設学科		環境園芸学科		
科目名称		園芸学概論				授業形態		講義		
科目コード		710127	単位数		2単位	配当学年		実務経験教員		
担当教員名		長江 嗣朗、廣瀬 大介、姜 暎求、山口 健一、菅野 善明、陳 蘭庄、前田 隆昭、杉田 亘							ICT活用	
授業概要		<p>本授業の目的は、園芸学分野に関する基本的な知識を習得することである。【知識・理解の育成】 講義は園芸学分野（園芸生産環境専攻、植物バイオ・育種専攻）の教員がオムニバスで実施する。</p>								
関連する科目		1年時前期必修科目『環境園芸概論』に引き続き行う。								
授業の方法と進め方		授業は板書とパワーポイントを用いて行う。随時、プリントなども配布する。								
授業計画【第1回】		1. ガイダンス・落葉果樹類の概要について（前田隆昭） 果樹園芸学とはどのような学問かについて学習する。								
授業計画【第2回】		2. 常緑果樹類および熱帯果樹類の品種動向について（前田隆昭）								
授業計画【第3回】		3. ヒトと花のかかわりについて（長江嗣朗） 歴史上花がヒトとどのようにかかわってきたのかを学習する。								
授業計画【第4回】		4. 花卉園芸学の概要と現状（長江嗣朗） 国内における花卉の生産状況および流通状況について、過去から現在までの変遷を学習する。								
授業計画【第5回】		5. 作物根系の役割と機能・形態の調査方法（廣瀬大介）								
授業計画【第6回】		6. 変化を求められる農業（廣瀬大介）								
授業計画【第7回】		7. 果実産業の現状と貿易について（姜 ？求）								
授業計画【第8回】		8. 野菜産業の現状と貿易について（姜 ？求）								
授業計画【第9回】		9. 園芸生産の環境上の問題点（山口健一） 農業や化学肥料、エネルギー消費の現状について学習する。								
授業計画【第10回】		10. 植物栽培環境の生物的改善（山口健一） 有用微生物や植物等生物機能の農業利用について学習する。								
授業計画【第11回】		11. 蔬菜園芸学における在来野菜の文化財としての魅力と品種改良①（陳 蘭庄）								

授業計画 【第12回】	12. 園芸作物におけるバイオテクノロジー技術の利用について（1）（杉田 亘）
授業計画 【第13回】	13. 園芸作物におけるバイオテクノロジー技術の利用について（2）（杉田 亘）
授業計画 【第14回】	14. 植物病理学入門—演習入門—（菅野善明）
授業計画 【第15回】	15. 植物病原体の分離・同定の実際（菅野善明） 順番および内容は変更されることがあります。
授業の到達目標	1. 園芸学の基礎を理解しながら、栽培や生産および育種関係の基礎知識を習得する。【専門分野の知識・理解の育成】 2. 園芸学分野で学ぶ上で、必要となる基礎的な専門用語も併せて習得する。【専門分野の知識・理解の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)／3.人間力、社会性、国際性の涵養-(1)
授業時間外の学習 【予習】	本授業の1回目に15回分の授業のテーマを紹介するので、予め基礎知識を学習しておく。（1時間程度）
授業時間外の学習 【復習】	授業後には授業内容に関連した論文や資料等で学びを深めること。また、各回ごとに課題を作成する。（1時間程度）
課題に対する フィードバック	最終試験は、試験終了後に解説を行う。
評価方法・基準	各回ごとに課された課題から総合的に評価する。
テキスト	必要に応じ、随時配布する。
参考書	なし
備考	